

令和2年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和2年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和3年3月16日(火) 午前10時から午前11時30分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 会議室301
4	委員出席者	百瀬委員、宇田川委員、細野委員、須之部委員、金井委員、笹本委員、伊藤委員、古川委員 (欠席:春日委員、高原委員)
6	事務局出席者	山下文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館兼飯沼飛行士記念館荒深館長、田淵行男記念館曾根原館長、穂高陶芸会館小倉館長、安曇野高橋節郎記念美術館黒岩館長、貞享義民記念館中村館長、臼井吉見文学館平沢館長、財津博物館係長兼新市立博物館準備室長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、寺島博物館係員、三澤文化振興担当係長、内山文化振興担当主任
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	1人
9	会議概要作成年月日	令和3年3月29日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会

2 あいさつ

会長

- ・美術館の学芸員と文化課の職員が協力し「安曇野風土記IV安曇野の美術」という本を作成した。市民が安曇野の美術を俯瞰できる内容となっている。

文化課長

- ・この1年、感染症の影響により事業の変更や中止が相次ぎ、各館非常に苦労した。そんな中ではあるが、「安曇野風土記IV安曇野の美術」を編集した。各館の学芸員や市の職員が執筆している。また、昨年度「明科の宝」を刊行したが、引き続き「穂高の宝」も刊行する。その他、館の紀要など、数冊ができあがる。コロナ禍の中で、学芸員が懸命に研究した成果となっている。
- ・本日は次年度の事業案について、ご意見を賜りたい。

3 報告・協議

(1) 令和3年度事業計画について(資料1)

委員 外出しにくい1年であったが、各館を訪れ状況を見た。それぞれ、懸命な毎日の積み重ねや工夫、努力の様子が分かった。ピンチをチャンスととらえることもできる。マスコミ等とタイアップし、この努力の様子や見どころを取り上げてもらえばどうか。また、3月より市のホームページでバーチャルミュージアムが公開された。同じく市のホームページ上のキッズページがリンク付けられているが、一部、市のこれまでの調査研究と異なっている部分がある。

会長 職員の人数にも限りがある。今年度は本の刊行等、努力の成果も表れている。できることから始めていただきたい。新聞社等と協力し、連載をしても良いと思う。また、博物館は事実や物を通して教育をする、物を通して考えていく場所だと思う。博物館及び教育委員会の連動の下に、きちんとした子ども用のページを作成していただくようお願い

したい。

委員 新聞に博物館のレギュラー枠を設け、「館の1点」のような形で行ってはどうか。予算的には難しいと思うが、最近はバーチャルリアリティーを利用した展示もあるのでは。

会長 動画作成は様々な館で取り組まれている。しかし、素人とプロが作ったものは完成度が大きく違う。市の予算で取り組めるものに限りはあると思うが、重要な点である。

委員 学校ミュージアムを見学した。子どもたちの反応がとても良かった。ただ、大規模校での実施ということで、学芸員の方はとても大変だったと思う。それぞれの館のエッセンスを、熱を持って子どもたちに語りかけていた。作家のライブペインティングもあり、子ども達の素朴な質問に一つ一つ作家が答えていた。実際に作家が描いている様子を見るということは、なかなかできない経験であり、良い刺激になったと思う。

会長 運営するスタッフの苦労はあると思うが、館の紹介や収蔵品のアピールを通して、子ども達に文化芸術の大切さを伝え、感性を育てるよう、是非継続していただきたい。

委員 次世代となる小中学生への体験学習も重要だと考えている。子どもが自らもう一步先まで学習を進めていくことが大切。なるべくそのような機会を作るという点では、実物に触れることが重要だと思う。震災から10年の節目、この間どのように子ども達が育ってきたのか、それを意識しながら行っていくことも大切。

会長 関心の入口が動画等でも良いと思うが、バーチャルではなく実物を見て考えてもらうことが重要である。学校ミュージアムは、実物だからこそ感動がある。

委員 まず、「安曇野風土記Ⅳ」は安曇野の美術を知るきっかけになると思う。このような調査・研究が進んでいく中で、作品個々のコンディションが問題という印象もある。予算的に簡単な話ではないと思うが、今後展示の予定もあることから、保存修復のロードマップのようなものが必要になってくる。しかるべきところには予算の重点的な措置をしてほしい。次に、豊科近代美術館の指定管理料と歳出について、減少しているところがある。ここについて説明をお願いしたい。

事務局 指定管理にあたって、安曇野市の場合は5年間の計画で行っている。当初提出していた運営計画の中では、今年度は日展等の展覧会開催を計画していた。その分の減少である。

委員 来年度、隣接する松本市では美術館と博物館が休館となる。その分の集客も意識してほしい。豊科近代美術館でシンビズム4が開催されるが、同時期に大町市では北アルプス国際芸術祭が開催される。8月末から9月初めにかけて、県内で大きなイベントが重なっていることから、滞在も意識しながら、何か仕掛けてみるのも良いではないか。

委員 市民が博物館構想の存在をあまり知らないのではないかと。自分も一緒に作り上げていきたいという想いを持てるようになればと思う。鑑賞教育にも力をいれ、鑑賞する力を養える博物館を作っていってもらえればと思う。

事務局 平成27年に博物館構想ができた。その5年後に準備センターが設置し、15年後に新しい博物館をつくるという長期的な計画となっている。市民とともに、どのように資料を整理していくのか模索中である。現在は、各施設の劣化状況を専門家に見ていただき、今後20年、30年と使い続ける場合のコストを確認している。その結果を受け、施設の統廃合を具体的にどのようにしていくのかということと来年度の前半に市民に対し示せばと思う。現在分散して保管している資料をどのように整理していくのか、協議している。

事務局 対話型鑑賞教育について、館では県総合教育センターと共催で、近隣の小中学校を対象に、「対話型鑑賞授業」を行う予定である。子どもだけでなく、大人向けの鑑賞教育も大切である。既に行っているギャラリートークも、どちらかといえば、学芸員からの一方的な作品説明になってしまっている。どのような問いをしていくのが重要である。

会長 学芸員は、伝えるだけでなく、見る方々からどれだけ学ぶことができるのかも意識してほしい。

委員 市内の図書館や市外の博物館との連携、また見る側、見せる側を分けず、一緒に作り上げていくような事業を行ってほしい。

会長 職員の人数にも限りがある。できることから行ってほしい。市の文化政策の方向性と事業をどのように結びつけるのかという点もある。市民の関心を育て、積極的に関わってもらえるようにしてほしい。

(2) その他

事務局 委員の任期は2年。来年度もよろしくお願ひしたい。新年度の第1回目の協議会は5月に開催予定である。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。